

Newsletter

Vol. 7

2008.12.24

日本養護教諭養成大学協議会

事務局：岡山大学大学院教育学研究科

高橋 香代

〒700-8530 岡山市津島中3丁目 1-1

TEL&FAX 086-251-7699

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ 目 次 ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

協議会会長挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・	1	選挙管理委員会だより・・・・・・・・・・・・	4
FD 委員会主催ワークショップ報告・・・・	2	卒後教育の充実を目指して・・・・・・・・	5
各種委員会活動報告・・・・・・・・・・・・	2	事務局からお知らせ・・・・・・・・・・・・	5
トピックス教員免許更新講習・・・・・・・・	3	編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
		(付) 年賀 牛・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6

協議会会長挨拶



日本養護教諭養成大学協議会

会長 高橋 香代

(岡山大学)

発足時 66 大学・短期大学（部）の加盟であった日本養護教諭養成大学協議会も、3 年を経て、2008 年 11 月末現在、加盟校は 97 大学・短期大学（部）となりました。

この年 3 月には教育課程（カリキュラム）委員会と養成制度（法制度）検討委員会から委員会報告が、9 月には事業活動報告書（2005 から 2007 年度）が発行されました。FD 検討委員会も活動を開始し、ホームページの開設、基本調査の実施など協議会活動が本格化しています。

さて 2008 年度の総会は、100 名余の参加をいただき、9 月 5 日に東京田町のキャンパスイノベーションセンターで、評議員会、養護教諭免許状更新講習、養成教育ワ

ークショップの行事に続き開催されました。

養護教諭免許状更新講習については、会長校から申請した「免許状更新講習プログラム開発事業委託事業」の調査報告と、宮内健二教員免許企画室長（文部科学省教職員課）に免許更新制について講演をいただきました。宮内免許企画室長には、ご多忙の中開設申請のスケジュールなど詳細な情報提供をいただき、有意義な時間となりました。午後の養成教育ワークショップでは、FD 検討委員会の調査結果をもとに「養護教諭養成における実習のあり方」について、熱心な議論が交わされました。課題は多いと思いますが、活動を継続する中で改善していきたいと思います。

総会では、2007 年度事業報告、2007 年度事業報告（経過）、2007 年度決算報告監査報告、2009 年度事業計画、2009 年度予算が承認されました。また役員選出規程第 7 条役員候補者 10 名連記を、10 名以内連記とする改正案とともに、2009 年度実施の役員選出のための選挙管理委員が承認されました。

11 月 26 日には事務局会議を開催し、総会の反省や、来年度の役員選挙などの話し合いを行いました。会費未納大学の取り扱いや、役員の人数などの課題を整理して、次回の総会には会則の見直しを行う予定です。また来年度の役員選挙につきましては、2008 年 3 月までに 2008 年度会費を納入した加盟大学を有資格者として取り扱い

ますので、未納校はご注意をお願いします。

最後に、荒木田美香子理事がこの4月の異動で理事資格を失われたため、総会ではオブザーバーとしてご協力いただきました。荒木田先生には、これまで初代FD検討委員会委員長を務めていただくなど本協議会にご尽力いただきましたことに感謝申し上げます。



FD委員会主催ワークショップ報告

瀧澤 利行 (茨城大学)

9月5日の13:00から15:30にわたって、FD委員会主催によるワークショップが開催された。今回のワークショップは、予め会員校に対して実施した養護実習および臨床実習に関する実態調査をもとにグループワークを行い、それぞれのグループでの議論を集約して、各会員校の実習運営の一助とすることを目的として企画・運営された。

はじめに、FD委員会のメンバーであった荒木田美香子氏(国際医療福祉大学)より今回のアンケート調査についての結果概要を報告していただき、その後、同調査結果概要に関して、教育学部養成の立場から河田史宝氏(茨城大学)、看護系大学養成の立場から池添志乃氏(高知女子大学)、短期大学養成の立場から鈴木美智子氏(東京福祉大学・前九州女子短期大学)から、それぞれの立場からみた調査結果についてのコメントをお願いした。その後、6グループに分かれて、結果報告とコメントーターのコメントにもとづきながら、グループディスカッションを行い、さらに全体会で各グループの議論を集約した。

今回の議論では、実習主導に長い歴史をもつ養成機関、さまざまな工夫を試みている養成機関、これから新たに養護実習に取り組もうとしている看護系養成機関、臨床実習のあり方を模索している養成機関などのそれぞれ異なる事情と課題が情報交換され、養護教諭養成における実習の課題が改めて浮き彫りになった。既に教大協においては研究委員会等で議論を重ねてきた課題ではあったが、性格の異なる養成機関ごとの課題を通覧してみると、実習の計画と指導のあり方は常に継続的な検討が必要で

あることがわかった。特に実習校の確保、臨床実習施設の種類と内容、実習先との連携(教員の引率、指導など)において、スタッフの人数等との関係で、大きな課題があることが明確になった。これらの点は、今後も本協議会で検討していくべき課題であると思われる。

各種委員会活動報告

教育課程検討委員会

委員長:岡田 加奈子(千葉大学)

今年度は、日本教育大学協会全国養護部門が発表したコアカリキュラムを受けて、具体的なカリキュラムの検討を行っています。多様な背景を有する養成機関で実際にどのようなカリキュラムが可能なのか検討を行っています。

養成制度検討委員会・今年度の活動について

委員長:高橋 香代(岡山大学)

今年度は、会長校から文部科学省「免許状更新講習プログラム開発事業委託事業」に申請し、養護教諭の免許状更新講習に関するアンケート調査を行い、総会時に報告しました。

FD委員会

委員長:瀧澤 利行(茨城大学)

今期のFD委員会は、役員会で承認されたFDのテーマである養護実習・臨床実習のあり方を会員校にアンケート調査を実施し、その結果についてグループワークを行う方式を検討した。7月下旬から8月上旬にかけてアンケートを実施し、集計した結果を8月26日にFD委員会を開催し、その内容を検討し、9月5日のFDワークショップにおいて公表・討論を行った。



トピックス

教員免許更新講習について

熊本大学教育学部

養護教諭養成課程

松田 芳子

本大学では、教員免許更新実施体制準備委員会を組織し、教員免許更新講習の実施体制や講習内容の概要等について審議し準備を進めている。さらに、熊本県内で教員免許を出している大学でコンソーシアム熊本を組織し、各大学で協力しながら進めていくことを目指している。20年度の予備講習（試行）では、熊本県教育委員会に広報、受講者を募集し、必修領域の科目と選択領域の科目を熊本大学とサテライト（阿蘇会場）において開講した。

本課程では現在、心の健康教育（現代GP）に取り組んでいるため、養護教諭受講者を対象に「養護教諭が行う心の健康教育」というテーマで3人の専任教員により、3時間の予備講習（時間内に筆記試験を行う）を実施した。12名の受講者であったが、受講者は大変意欲的であり、受講態度も大変良好であった。「児童生徒の心の健康問題（講義）」「アサーショントレーニングにおける学習ソフトの活用（演習）」の内容で構成し、受講者の事後評価アンケート結果も概ね好評であった。

実施にあたり、事前アンケートが事務局より実施されたが、受講者（養護教諭）のニーズも学校種や経験年数で異なったため、講習をどのような内容にするか苦慮した。大学側の実施体制等により、提供できる内容の実情もあるので講習内容のテーマ設定が課題と思われる。

本施行となる21年度は、養護教育専任教員（養護教諭養成課程と特別別科）全員で分担し、18時間の講習を30名定員の2回開講予定である。

福岡県立大学

図書館長・教授 松浦 賢長

1. はじめに

福岡県立大学は、本年度夏に、文部科学省免許状更新講習プログラム開発委託事業に応募し、延べ30時間にわたる講座を開講した（以下、予備講習）。本稿では、主に運営体制からご報告させていただく。なお、本学は人間社会学部と看護学部の2学部を有するが、今回の事業は両学部の連携をもとに、大学が一丸となって取り組んだものである。

2. 運営体制

本学では、今回の予備講習の開催にあたり、まずは、学内にて全学的な組織の位置づけとして、「運営部会」を設置した。運営部会の構成員は、教員が7名、事務局サイドは2名であった。会議の開催回数は、6回であった。コーディネイターの役割は、両学部から1名ずつの教員が担当した。

3. 事務体制

本学は独法化後、事務局に経営管理部と学務部の2つの部門を置いている。今回の予備講習は、学務部の教務企画班が担当した。予備講習担当職員は1名であり、教務企画班長がそれを兼任した。ただし、本事業費より、非常勤職員を1名雇用した。非常勤職員は、月16日勤務契約であり、平成20年4月から11月までの任用であった。

予備講習は、大学夏休みに行われたが、開講時には、受付・資料配付等のため、事務局職員（教務企画班）が2～3名応援にあたった。また、看護学部の養護教諭1種課程学生もボランティアとして活躍した。

4. 講師体制

総コマ数30時間の予備講習を担当したのは、学内講師が10名、外部講師が4名（現職総括教頭、元小学校長、医師、歯科医師）であった。学内講師については、通常勤務内の業務として扱われた（特別支給等は無し。土日の講義は代休有り。）。



5. 講座概要

種別は2種類である。まずは、一般教員を対象とした「教育の最新事情（必修）」であり、12時間の講義によって構成され、113人の受講者数であった。もう一つは、養護教諭を対象とした「教育内容の充実（選択）」であり、12時間の講義群と6時間の講義群の二手に分かれていただいた（重複受講は無し）。12時間の講義群は68人の受講者、6時間の講義群は62人の受講者となった。

6. 終わりに

本稿は主に、マンパワー等の観点から予備講習について記述した。より詳細な情報については、問い合わせいただければ幸いです。 matsuura@fukuoka-pu.ac.jp



愛知教育大学

(2名で1講座6時間を担当)

渡邊 貢次

・当初1講座20名の予定であったが、受講希望者が多かったため40名とした。それでも東京・神奈川・愛媛・広島のほか遠方からの受講生も多くみられた。遠方者は地元の抽選はずれという声が多かった。

・試行ということもあり、大学事務から担当教員への連絡体制に問題があった。例えば、2名担当の講座であったが、事務からの連絡事項が養護教育講座代表であったり、担当者のどちらか1名であったりして、情報の共有がスムーズにとれなかった。

・また、講習テキストの提出をかなり早くから(2ヶ月近く前)要求されたが、受講生に事前に配布するわけでもなく、結局当日の出欠確認時に手渡されたとのこと(教員は当日知った)。ならば、もう少しテキスト内容を吟味する時間があつたのではないかな。

・2名で行ったため、それぞれ1人の担当時間は3時間(内、試験時間は約20分課している)である。結局試験といつてもレポート的になり、受講生の中には設定時間をこえ

るのも複数いたが、それも認めざるをえなかった。なお、レポートのみによる認定は認められていない。この状況で、評価(S,A,B,C,F)を行うのはなかなか困難といえる。もちろん、担当者も評価されている。

・現実的には、受講生にも担当教員にも更新講習のモチベーション自体が高まっていたとはいえないのでは。以上、気のついたことを書いてみました。

選挙管理委員会だより

—選挙管理委員紹介・活動計画—

日本養護教諭養成大学協議会選挙管理委員会

委員長 竹鼻 ゆかり (東京学芸大学)

2008年度総会において「役員選出に関する規定」が承認されました。選挙管理委員は大嶺智子(杏林大学)・鈴木裕子(国士舘大学)・竹鼻ゆかり(東京学芸大学)の3名が委嘱され、選挙管理委員の互選により竹鼻ゆかりが委員長に決まりました。選挙管理委員会では、2008年11月26日の事務局会議で、第1回選挙公示案を提示して承認を得ました。選挙日程は、2009年6月上旬評議員へ選挙に関する書類を郵送し投票開始、6月27日締め切りとなります。選挙に関する問い合わせは全て選挙管理委員長(竹鼻ゆかり)へお願いします。選挙が無事に進行できますよう会員大学の皆様のご協力とご支援をよろしく願いいたします。(文責:竹鼻)

【選挙管理委員長連絡先】

委員長 竹鼻ゆかり (東京学芸大学)

e-mail: takehana@u-gakugei.ac.jp



卒業教育の充実を 目指して

事務局から お知らせ

2008年度新規加盟大学は、11月末現在、大学9校
短期大学2校の11大学でした。加盟大学総数は、
2008年11月末日現在、大学80大学・短大17大学で
す。

また、日本養護教諭養成大学協議会のHPのドメイ
ンは、<http://www.j-yogo.jp/>です。

関西女子短期大学 保健科

養護・保健コース

「養護教諭の資質向上の取り組み」

関西女子短期大学 小西 俊子

今年度、関西福祉科学大学が初めて主催する認定講習に関わることができました。この講習の実現は、本コース卒業生に対し実施した実態調査から出発した。調査目的はリカレント教育の実現でした。その結果、「是非、関西福祉科学大学と連携した養護教諭1種認定資格など、私たちの専門性を高める研修の機会を積極的に作ってください。卒業年数が経てば経つほど情報を得ることが難しくなります。私学卒の人間も通える研修会の開催を行って欲しい（以下略）」と卒業生からの意欲あふれる意見が寄せられた。

それを受けて教員は、その願いを実現しようと決意を新たにし、企画が始まった。後援会の支援をいただき、学園理事者等も快く受け止めてくださり、7月末から8月8日まで「免許法認定講習」を開催することができた。

参加者は、遠く兵庫県等、近畿一円から集まり、口々に開催への感謝が述べられた。その中で、ある参加者から「2種の人には、養護教諭と名乗って欲しくない」と同僚の養護教諭から言われた事実を報告され、参加者一同がその言葉の不条理に怒りの感情を抑えきれない様子であった。しかし、すぐに別の参加者から「仲間との学びで、跳ね返しましょう」との声があがり、互いに励ましあう光景も見られた。

参加者同士の深い学びあいは、認定講習の内容以上に各々の自己研修の動機付けに繋がっていることを実感した。

今後も、多くの養護教諭が講習の機会を得られるよう、取り組んでいきたい。



編集後記

世の中、不景気の嵐が吹き始め、この年末から来年に向けて、どのような動きになっていくのかが予想もつかないまま、すごい速さで動いています。当然、大学の入試にも大きく関与することでしょう。

さて、免許更新制度がいよいよ始まります。どの大学もその研修会のあり方について検討委員会が設置され、動いていることと思います。今回は、そのような中で、既に今年度実施された熊本大学・福岡県立大学・愛知教育大学からご報告をいただきました。大いに参考にさせていただきたく思います。原稿依頼にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

今年もあと僅かです。インフルエンザの流行も心配されております。先生方、どうかお身体に気をつけて、よいお年をお迎え下さい。

櫻田 淳 (埼玉県立大学)
楠本久美子 (四天王寺短期大学部)
大原 榮子 (名古屋学芸大学短期大学部)



日本養護教諭養成大学協議会ニューズレターVol.7
発行 日本養護教諭養成大学協議会
編集責任者 高橋 香代 (岡山大学)
mail kayosan2@cc.okayama-u.ac.jp
連絡は月・火・木にお願いします。



2009年もよろしくお願い致します



牛

高村光太郎

牛はのろのろと歩く
牛は野でも山でも道でも川でも
自分の行きたいところへは まっすぐに行く
牛はただでは飛ばない
ただでは躍らない
がちりがちりと
牛は砂を掘り土を掘り石をはねとばし
やっぱり牛はのろのろと歩く
牛は急ぐことをしない
牛は力いっぱい地面を頼って行く
自分を載せている自然の力を信じきって行く
ひと足ひと足牛は自分の力を味わって行く
ふみ出す足は必然だ
うわの空のことではない
是が非でも出さないではたまらない足を出す牛だ
出したが最後 牛は後へはかえらない
そして やっぱり牛はのろのろと歩く
牛はがむしゃらではない
けれどかなりがむしゃらだ
邪魔なものは二本の角でひっかける 牛は非道をし
ない

(中略)

利口でやさしい眼と なつこい舌と
厳粛な二本の角と 愛情に満ちたなき声と
すばらしい筋肉と 正直な涎を持った大きな牛
牛はのろのろと歩く
牛は大地をふみしめて歩く
牛は平凡な大地を歩く

しっかりと世の中を見て。

子どもの実態を見て、

養護教諭の養成を行って

いきましょう。